

「あまり」問題

7月が充実した学びに

2019.07.08

No.72

校長 渡邊 幸二

先日の授業研究会においでになった方からメールで感想をいただきました。

昨日の授業研究会も大変参考になりました。

窓側にいた男のお子さんの発想に驚きました。まだ3年生という、自分の考えを明確に最後まで主張するにはまだまだ自信が持てない中、最後まで発表する力も着実に育っていると感じました。「あまり」という言葉であっても、「ほしい」や「足りない」と言い換えることを理解することは、教科横断的な言語活動にいかせるとも感じました。

本当にありがとうございました。

このメールにすぐに返信を送りました。

まさしく！

今日もマイスターや研究主任と語っていたのがそのことです。「あまり」なんて通り一遍で覚えているのが悪！「、、、」と書かせて、それをどう読み取るか… その方がよっぽど論理的思考のできる子どもになるのでは！

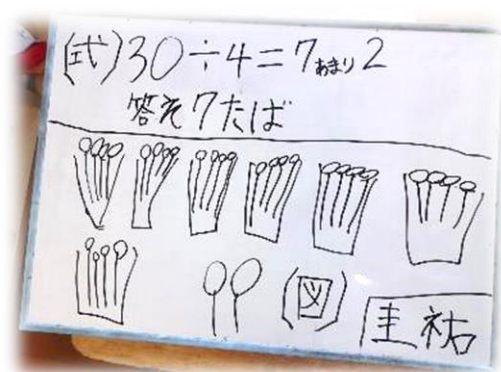
ちなみに、昨日の問題を、6年生にもさせてみたそうです。やっぱり「、、、」の解釈で議論になったとか。6年生に答えの解説を書かせることも、かなり高度な学習になりそうだななんて話していました。



さて、今日はあれから何時間後の授業なのか定かではないのですが、次のような問題で、子どもたちを悩ませていました。担任のK先生は、子どもたちを困らせることを喜んでいるようでした(Sではありません。優しいお方です)。

花が30本あります。この花を4本ずつにして花たばをつくります。4本ずつの花たばはいくつできますか。

子どもたちはこれまでの学習を生かし、 $30 \div 4 = 7$ あまり2 $7 + 1 = 8$ ことえ8たばというグループと、7たば派に分かれて議論をしていました。何か充実した学びが展開されていて、見ている私もうれしくなりました。評価3学期制だと、今の時期は成績まとめで、どの教室もテストやその直しなどをやっていて、通常の授業風景はあまり見られませんでした。しかし2期制にした今年は、これまで入れにくかった体験活動(自然教室)や校外での活動が多く行われています。先生方がうまくカリキュラムをマネジメントしてくださっているからだと思います。



先生方の働きかけのおかげで

金曜日の学校保健委員会へのご参加、ありがとうございました。その中で私は参加者のみなさんに優しい子どもにするために他者意識を高めることを訴えました。小さな行いですが、あいさつや感謝の言葉などに、その魂は宿ることもお伝えしました。

学校でもそういう営みがくり返され、少しずつではありますが、下の写真のような嬉しい変化が見られるようになってきました。まだ一部の子どもたちではあるのですが、私たちがそこに注目していくことで、必ず子どもたちの行動は変わってくるはず。これからもよさに注目した働きかけをよろしくお願ひします。



止まってくださった車に感謝のあいさつができています。他者意識の高まりと感謝の心の醸成、謙虚さの芽生えが期待される行動です。浜田っ子に絶対に身につけさせたい「生きやすい生活習慣」のひとつです。



授業参観時説明 2018.11.21

どう生活するのか＝「枠組み」

↓

将来にわたり「生きやすい生活習慣」

その習慣にしたがえば

- 人とのいい関係を維持できる
- 体調がいい
- 楽しい時間を過ごせる
- 気持ちよく生活できる
- 浪費を防げる
- 生活を豊かに安定させることができる



6年生が朝そうじをしてくれました

今朝、校内のあちらこちらでそうじをしている6年生を見かけました。これも非認知能力育成には大切な行為です。この「朝そうじ」という活動は、何も6年生の専売特許ではありません。志があるならば、何年生でも、たとえ一人でもやれる活動です。前の学校でも、6年生の素敵な姿を見て、3年生や2年生が始めました。現在の浜田っ子の課題解決のため、様々な角度からの働きかけを続けていければいいなあと思います。